日本契情始

巻五

858
105
取扱注意

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105

ガラス使用

帝國圖書館

日本契情始 五

第一

家中共連判押分て勘る忠臣の金

家中の禁忌を犯す人

主を放つ和泉の細

うらみて死む女の命

車のあ梅

まうら氣かわるし

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105

ガラス使用

第二　歌いうてぞと打て感ずる訳を

見るの目にぬるの色の眼

お髪い男をおいて

おない血汐の手和うんぐぬの眼

ろろんじゅう　ゆろ　みぐい　うぐ

第三　関の娘子島考よ姫ぐ民乃竈

じせろ　ちとせ　そうふ　さの

附言とおのの色の業とまるまねの業と

ものぐぶつ　ぐんがい　ざろうりさろくこえ

持ちあって風俗を得る歌よろ

ぐんがい　ざろうりさろくこえ

もろ人共家万業のはや風俗の声

（一）家共連判押付て勧る高知会社

ふをちらそへそろのぐ浦世の娘

人ろう我ら孩の家をちらぐぞ。一方

うめよ指々をおろて世上に眼と

ご浦家の喜花不西天るの大事と歌を一見亜ろさ。

まて孩の伝ぱちまで行高多

ろひ一号に行て喜の中に塾高

ご浦家の家花七潮統ちろとろ

をり待ぬをこのようねぐろうぬてぬ。

あるら私多の杜ろさるのろ

ろよぴそろの指々と指考して

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105

ガラス使用

みくち紙のせてずいに書花一ぬの方おくまき入さもひもひして
手あ和方出ず。青表のさを表方こさ紙さを也。四仏種よ灯明と
あげてもけるいぬ表和面めぐ表出銀へ入なんと記めそう日勢なる。
あ人家くに住人義ろこへ関係せれ。をり出和睦ゆりて出入ることを
名ぬ礼ぐも。一家中ぬ人く同ぬせんぬ和面めぐ表出入ある依へ。
出家の滅もののうぬ出ぬ入ぬ勇と恵利益の功徳をあげ。なるほこと
さるにうて。ぬ出ぬもぐく私縁せてのひ。和面めぐ表出入ぬ
いまぐ一没せぐろおうぬそ一家中和面めぐ表出入ぬをおくことまぬ也。拒ぬ
ぬ出ぬそよいうこまぬあうぬぬぐあてこれこと
ばぬ出ぬ也ある紙和ぐいせこぬそのぬ出ぬ入ぬそ
ぬへ出入ある事いさのこ私ぐひぬぬぐやを脱が取りとことけぬぐび
ふせぬてそいぬうぬ依うぬぬぐぬぬぐぬぬぐ

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105

ガラス使用

こわさの山をねるべぺんと行くうちにて乃どぺ来月
でいつのまにやら今月毎年いまのまよ今
お俗なりぺ君が百の情よへ喜び百年の月を来ん
あくる正出世のあるべぺ今と捨る山乃色でいあざるやそこのあみ
こいつはいあてしまべぺみせきこんとれ夏の昆
今の山月ぺこぺあり比楊が毎きつひまいつ
でするもそのある夏ごのうてきみくへぺ今
いとにちさんがぺまつ今と捨ますれぺ雨
いくことはてのよぺぺもあくもいうすぺ
てはいてごまんせこおくごそぺけまぺ
がお印てもいう行りそぺちるる山乃中ぺ
はこんぺ中さのうち行いぺ雨あくかとを出鉢へ入ぺ

これこそれぺ宮てお出のやへ入ぺ出ぺ
もうる雨よいあの狐れ方後ますまのぬ雨
行ぺうてれぺ今之のあよ山新ぺまとうけ
くぺ行よあくこうとりそぺ雄ぺ真あう。
あべぺけごあのていうれまぺ行る雨いそ山
こうてぺの猫の相と新てのとぺ雨あうる
堂の新治あれぺそぺよりて夏ぺ山の
義西川とあります。ぺいうい在れぺ
いぺけとのやくとおそれぺ事のくい安行
西へ行のひてぺけとうるへとされまる
まそれぺ火金風のてへけあこごぺうそ
岡内のぺまけとおうる行の去へ虎のうとも

あまりのうれしさにひそかにおもふやう、我さんざんにあしらひて去のち、いかなる人にか身をまかせんと、いろいろにおもひくらしけるが、いつもおもふ人にあふ事のかなはぬ身のうらめしく、かの人の事をおもひつづけてゐたりしに、今日よりの事なれば、いかなる人にもあふ事なるべし。我ながらおもひきりのよきにおどろきながらも、又おもふ人にあふ事のうれしく、ひとりほくそえみてゐたりしが、酒をおくりこしたるまま、いつまでもおとづれなければ、いかがしたるにやと、又しても心もとなくおもひくらしけるが、ふと思ひ出したるやうに、

我さんざんにあしらひて去のち、いかなる人にか身をまかせんと、いろいろにおもひくらしけるが、いつもおもふ人にあふ事のかなはぬ身のうらめしく、かの人の事をおもひつづけてゐたりしに、今日よりの事なれば、いかなる人にもあふ事なるべし。我ながらおもひきりのよきにおどろきながらも、又おもふ人にあふ事のうれしく、ひとりほくそえみてゐたりしが、酒をおくりこしたるまま、いつまでもおとづれなければ、いかがしたるにやと、又しても心もとなくおもひくらしけるが、ふと思ひ出したるやうに、

「とかくの物おもひは、ただ酒にかぎる」

とて、ひとりでに酒をのみはじめ、

「我ながらおもひきりのよきにおどろきながらも、又おもふ人にあふ事のうれしく、ひとりほくそえみてゐたりしが、酒をおくりこしたるまま、いつまでもおとづれなければ、いかがしたるにやと、又しても心もとなくおもひくらしけるが、ふと思ひ出したるやうに、

「とかくの物おもひは、ただ酒にかぎる」

とて、ひとりでに酒をのみはじめ、

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105
ガラス使用

(二)

歌いつつ

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105

ガラス使用

もいろいろ揃えてもめいわくをおかけ申そうもぞんじ
ませんそれ故此方へ参りたくは存ませんが今日
までのまゐりかけもあるの四郎右衛門志てござ
いますれどもこれをのべ掛ねたうございますと
申あつかいの方へ参りけいこの事ゆえ
まことにてござりやうくおことわりでござりまする
ゆえ是非なくいつもの通り入れてあげる。今日は
すぐにもつて行たくとは申ませんがいづれ
いつぞさいてきみてござりやうくおことわりそれ
が悪口にあうて参るまでござろうこれ
ぢやぞよりてと引合されいづれの方のお
方でもおつかいなされい一は後ぜんを
いわい服忌のかたでいるゆえ毎日まいられ
いたの親た墓参をしてえんくつの用事
一刻もおつかせてはくれぬ用事がすんで
ろ朔日をうけて男たが用い薬湯を呑
くりわしがうち合兵で商用をめさるとい
をとつて商今めるとはいわぬで私よ
い合点いかずこの例によつてうかし
とうあるとはいえ二の日あいさうなるがはて

ゑびしの神社で俗よいわゝつてひでも。ぼん
おさしてとさんねんぢうぺ今夜へのよ
さるべきやどものやさふいふのさんぢうぺ。
けさびてそまとおもひでぺれの男と
うまれてんまでわれぺさんぢうぺ
とふれらうぺ女のまくいふまりぺやまよ女乃
とまるべくらうぺわれてぺ女にいふまれどもを
さみてうまひとはりてのうれをいふまれ
といふまのよいわゝぺまのおさあ
おゞうさこそいぱうのたまくいふまれ
ぺうまくいぱけまでうとうまとうぺ女のう
ぺうまくいぱけまでうとうまとうぺ女のう
ぺうまくいぱけまでうとうまとうぺ女のう

でいつれど我男つりてんの病さ
次ぺのまのうまさ紙もつぺ服のくて有月のまう
うりおさんとする女ぺ他のおくねさうぺ
病女を他とするぺ他のぺまのくぺ
たうぺ他のぺまのくぺ宿先ぺうけさ
いうさまをくお客わねうまりのまくぺ
うちまさにおうさぺ決まをはべわ
おうりけぺいねたまりまぺうぺ
ドけうぺ女のまのまくぺまりぺ
とうまれてぺ方のうぺ分うぺ
さうまのくれぺおぺてぺ指ぺのおうぺうぺ
あの方ぺうまのうぺけうぺ後会ゆくぺ

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105
ガラス使用

万海が弟子となりてより、ねてもさめても人をすくはんとの心ざしふかく、あるときお浦にねがふやう、「われ、ひとたびまことの道をしりぬれば、いかでか、ふたたびまよひの道にかへらん。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなひたまへ。われ、ひとりの母をやしなはざれば、ひとりの母、ひとりの妻をいつくしまざれば、ひとりの妻、ひとりの子をそだてざれば、ひとりの子、いかでか、人倫の道をおこなはんや。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。われ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなはん。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。」と、なみだをながしてすすめければ、お浦、万海がこころざしのふかきことをしり、なみだをはらひて、ふるさとへかへりぬ。

万海、お浦をすてて、ふるさとへかへしのち、ますます、ふかく、仏の道をねがひ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなひたまへ。われ、ひとりの母をやしなはざれば、ひとりの母、ひとりの妻をいつくしまざれば、ひとりの妻、ひとりの子をそだてざれば、ひとりの子、いかでか、人倫の道をおこなはんや。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。われ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなはん。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。」と、なみだをながしてすすめければ、お浦、万海がこころざしのふかきことをしり、なみだをはらひて、ふるさとへかへりぬ。

万海、お浦をすてて、ふるさとへかへしのち、ますます、ふかく、仏の道をねがひ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなひたまへ。われ、ひとりの母をやしなはざれば、ひとりの母、ひとりの妻をいつくしまざれば、ひとりの妻、ひとりの子をそだてざれば、ひとりの子、いかでか、人倫の道をおこなはんや。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。われ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなはん。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。」と、なみだをながしてすすめければ、お浦、万海がこころざしのふかきことをしり、なみだをはらひて、ふるさとへかへりぬ。

万海、お浦をすてて、ふるさとへかへしのち、ますます、ふかく、仏の道をねがひ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなひたまへ。われ、ひとりの母をやしなはざれば、ひとりの母、ひとりの妻をいつくしまざれば、ひとりの妻、ひとりの子をそだてざれば、ひとりの子、いかでか、人倫の道をおこなはんや。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。われ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなはん。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。」と、なみだをながしてすすめければ、お浦、万海がこころざしのふかきことをしり、なみだをはらひて、ふるさとへかへりぬ。

万海、お浦をすてて、ふるさとへかへしのち、ますます、ふかく、仏の道をねがひ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなひたまへ。われ、ひとりの母をやしなはざれば、ひとりの母、ひとりの妻をいつくしまざれば、ひとりの妻、ひとりの子をそだてざれば、ひとりの子、いかでか、人倫の道をおこなはんや。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。われ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなはん。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。」と、なみだをながしてすすめければ、お浦、万海がこころざしのふかきことをしり、なみだをはらひて、ふるさとへかへりぬ。

万海、お浦をすてて、ふるさとへかへしのち、ますます、ふかく、仏の道をねがひ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなひたまへ。われ、ひとりの母をやしなはざれば、ひとりの母、ひとりの妻をいつくしまざれば、ひとりの妻、ひとりの子をそだてざれば、ひとりの子、いかでか、人倫の道をおこなはんや。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。われ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなはん。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。」と、なみだをながしてすすめければ、お浦、万海がこころざしのふかきことをしり、なみだをはらひて、ふるさとへかへりぬ。

万海、お浦をすてて、ふるさとへかへしのち、ますます、ふかく、仏の道をねがひ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなひたまへ。われ、ひとりの母をやしなはざれば、ひとりの母、ひとりの妻をいつくしまざれば、ひとりの妻、ひとりの子をそだてざれば、ひとりの子、いかでか、人倫の道をおこなはんや。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。われ、ひとりの母をやしなひ、ひとりの妻をいつくしみ、ひとりの子をそだてて、ながく人倫の道をおこなはん。ねがはくは、われをすてて、ふるさとへかへりたまへ。」と、なみだをながしてすすめければ、お浦、万海がこころざしのふかきことをしり、なみだをはらひて、ふるさとへかへりぬ。

(三)　岡の御前の高名と姫小町民の竈

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105
ガラス使用

おやりよしてをおぶうて廣乃におくびをそ
よさるていぶ夜更の勅宣よいぶ年生ろとし
物忘ろくをて胆次のるにまでびたろの
及ばとをもれまの乳をてさるて息人をおく
ゆまり行てはにて事密安信恭敬とろれ考ろそらるこれこう
勤修よおう。そい和藤のろ人よ作付まし教祖をおてろ親とちづ
めろるで。月くいな悪いなどとよつさ。今の世の人ているい洞ト
の信。言義和尚のでいりづくびと食物
まてあに商売と話でんろよ商売あるまりまてあり
まにまろ。言義よ対面してい台とよ海ほどこの勅宣あ人別まん
台の外ろれちるれがわ高主をはんろとあると
それが出程高のでこあ台とおいてそおいふするよ。ぶ。

べてぶでて作をろくれば主義ひて出ろひよ作くかよ
対面の勅の起つもんで今石妖狐の狐公ろ化ぶ未の人とうや
はをはまろのといぶでし。事実国主義成れうくびひ
より紋作具ろせうぶんや衣特を接ろあびべ処千八狐親のかて都ひを
ろべくべ。ろれでしろの狐公ろらでひ肝をいてす事ぶにて言れざるびまてあり
ろくびのそびたをでにぶ狐ついつ世上にのてたぶの狐よた
代親とはつせ妖狐の郷主とあざさる感ずる赤ようぶ公ろ湯
いろひ。そ打ち綺作をいて漢紋狐の狐の陸てのろよう拳やの
方役ぶすでにろれでくて狐公の狐狐と成仏ろにあり狐狐。
ひる妻係希有の女と教化いてにいぶい
ろ事ていて狐ろう。幼ろの何狐よ

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105

ガラス使用

人ごとのうけ取ぬ其身のまぬれしからつゝしまぎれおもひきるまでをとゝ
猟仏ごさうぴんにおそてそび怪をおぼえるのこと。
ひるあまをこまりみがそのまとせつゝ白猟なとぴとせこゝ浦みよ
一尾よやれよそのこゝ浦みぴ浦ひ
さうこゝりそ義る方はまりおさこゝ
返活せこゝものれぴ猟を恨と教
うはてそれぴ老ごとそ猟ぴ浦みみ
なうぴまごとそびんこゝぴ侍のぴ
のびとにぴ里ぴ侍まのの白猟ぴ

みつぴの猟ぴの猟をおえまのぬまにようてあ業い
ぴまぴ老ぴ白ぴまぴうこゝあんぴせつぴまぴにみみいん。
あされてねつぴとぴ猟ひりびこのこあ
ひぴまこのりのぴとうこびねうこゝ
こぴのぴ里ようぴそのこれるうぴ白猟よすぐこと化り
してぴまこの白猟ぴいそのまくひぴあ
つゝこゝぴまもりとよう今ぴあぴ
よう具つようとよれぴそれぴ
ぴ猟ぴのこれぴ老代ぴ海方ぴ里ぴ
あづけ業れ業代ぴ海方ぴ里ぴとよびよ
家とあんこの猟ぴとぴへぴされようぴ
つゝこゝぴやそいぴぴ浦ぴこゝぴ
ぴうこゝぴ猟ぴこゝぴ猟ぴ
ぴ猟ぴ猟ぴ猟

858
105

保六年三月吉日

国立国会図書館　タイトル『日本契情始 5巻』 請求記号 858-105
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『日本契情始 5巻』　請求記号 858-105

ガラス使用